

# 明星大学地域交流センター Newsletter

Vol.8 (2022/3/1 発行)

## Contents

- 1・大学による地域貢献活動
- 2・学友会活動紹介  
【Pick up : 文化会へき地教育研究部】
- 3・勤労奨学生による活動
- 4・『第56回星友祭』  
実行委員会インタビュー
- 5・お知らせ

## 1 大学による地域貢献活動

### デザイン学部

「東京2020オリンピック・パラリンピック  
日野市ボランティアユニフォーム」をデザインしました

東京オリンピック・パラリンピックに際し、日野市では3種類のボランティア（聖火リレー沿道ボランティア、ウクライナ代表応援ボランティア、聖火リレーサポートランナー）を募集。それぞれのボランティア参加者が着用するユニフォームの考案について日野市から要請を受け、デザイン学部の学生がデザインしました。

日野市・ウクライナ大使館と連携し14カ月の歳月をかけて完成したユニフォームは、オリンピック及びパラリンピックの聖火リレーセレモニー会場で日野市長、日野市スタッフ、日野市小学生サポートランナーが着用しました。



企画表現演習5 授業「八王子活性化プロジェクト」にて、  
銭湯振興の企画を提案（2021年12月末まで販売）



2019年度、八王子市の地域活性化プロジェクトとして銭湯振興の課題に取り組んだ学生たちが提案した「あなたが宣伝大使」の企画が事業化されました。

「あなたが宣伝大使」は、ランナー（＝宣伝大使）が八王子市内の銭湯の宣伝用Tシャツを着てランニング等をしてしながら、銭湯の広報宣伝を行うという企画でした。

ランナーはTシャツ（1,000円）を購入し、銭湯は無料入浴券5枚を提供。宣伝広報活動を行う際に、入浴券を使用できました。

「府中けやき並木イルミネーション  
2021」のビジュアルデザインを  
製作(11/10~12/26)

昨年度に引き続き、府中市の「府中けやき並木イルミネーション2021」実行委員会より、デザイン学部の学生を対象にポスターと告知動画の公募が行われ、3名の学生作品が選ばれました。

点灯式では、制作したPR動画が上映されました。





※分身ロボット

**OriHime :**  
株式会社オリイ研究所が開発。インターネットを通して操作することで、「その人がその場にいる」ようなコミュニケーションを実現。



**学生より :**パイロットの方々の反応がとても良く、景色を見ながら会話ができる OriHime の強みを活かせたと感じています。コロナ禍で施設利用者の皆さんもあまり外に出ることができない状況が続いていますが、ICT を活用することで新たな楽しみが広がることを実感しました。

**日野療護園ご担当者様コメント :**  
OriHime によるキャンパスツアーへのご協力、ありがとうございます。パイロットの3人も「学食の唐揚げ丼、食べてみたい!」「体育館も図書館もすごくきれいだった」ととても楽しんでいらっしゃいました。



経営学部

田原洋樹ゼミが「ひのたまガイドウォーク」(11/20,21) に協力

「ひのたまガイドウォーク」(日野市・多摩市・JTB 東京多摩支店・帝京大学小笠原ゼミ・たまロケーションサービス・明星大学田原ゼミの共同プロジェクト)が、11月20日、21日に実施され、田原ゼミの3年生10名も、本イベントに参加しました。

日野市と多摩市の観光地や、ドラマ・映画のロケ地をめぐるまち歩きイベントでしたが、お天気も良く、紅葉も見頃で、参加者の皆様もご満足頂けた様子でした。ゼミメンバーも運営スタッフの一員としてよく頑張ってくれました。



明星大学×紀の國屋によるコラボ商品「まん福」を考案 (1/28 発売)



経営学部では、2018年より日野市の菓子メーカー「株式会社紀の國屋」と共同して新商品の開発に挑戦しています。

今回日野市より、日野市と岩手県紫波町が姉妹都市であることを広く周知する「お土産品」の考案について要請を受け、「ビジネス実務応用『新商品開発』」(担当:田原洋樹特任教授)の授業から「まん福」が誕生しました。

生地は紫波町のもち米「ヒメノモチ」、餡には日野産のさつま芋に日野市内の豆腐店「とうふ処三河屋」の豆乳を加えるなど、地場産の食材を使用。「アレルギーのある人でも安心して食べてほしい」という学生の思いから、餡には動物性の乳製品、卵は使用していません。商品名は、糖質を抑え上品な甘さで罪悪感なく「満腹になる大福」という意味で学生の提案によるもの。満腹の「腹」と幸福「福」でかけています。

童謡「たきび」の作詞者・巽聖歌が縁で、日野市と紫波町が2017年に姉妹都市となったことから、「たきび」から連想される焼き芋がモチーフとなっています。

「東京グリーン・キャンパス・プログラム」に参加 (10/28)

次世代の担い手である大学生に、緑地保全活動に参加する機会を提供することで、学生の関心の喚起や行動力の醸成を促すことを目的におこなわれている、東京都の事業「東京グリーン・キャンパス・プログラム」に環境科学系の教員が参加。

10月28日、環境科学系の1年生とともに、八王子の滝山保全緑地で竹林整備を行いました。



日野市と多摩市の公民館が連携し、市民に学びを提供するプロジェクト、「たま学びテラス事業」の第2弾として、「ひの市民大学：明星大学連携コース」に、心理学部が講座を提供しました。全5回連続オンライン講座です。

日にち	講師	講演名
2/5	石井雄吉	私も今日からカウンセラー
2/12	福田憲明	ウェルビーイングとカウンセリング
2/19	竹内康二	不安と恐怖に対する応用行動分析学的アプローチ
2/26	富田新	スクールカウンセリングの実際
3/5	藤井靖	ストレスに対するセルフケアと対人支援-認知行動療法の視点から-



2 学友会活動紹介

◆2021年度ボランティアサークル特別報告会『コロナ禍での学生ボランティア』をZoom開催 (9/13)

ボランティアセンターは、2020年度から2021年度前期までのコロナ禍で従来の活動ができない状況を共有し、ボランティアサークル全体で課題点と今後について模索するために、特別報告会を開催しました。



参加したサークルの報告では、SNSを活用した勧誘で、部員が増えたところもありました。

各サークルは、オンラインで部員同士の交流をはかりながら、IT環境が整ってきた活動先と打ち合わせを重ね、新しい形での活動を始めています。

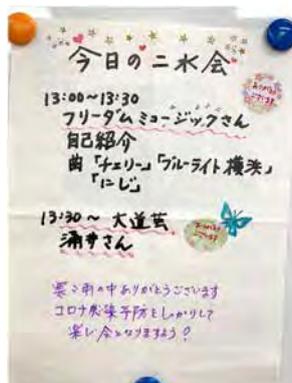
幹部交代についても、引継ぎ期間を長くする、対面の活動を知っている学年がしっかりフォローするなどの意見が出ました。

報告会には、今まで明星大学のボランティアサークルと深く関わってきた日野市社会福祉協議会、日野市地域協働課ほか、地域のボランティア拠点の方々も参加してください、広報活動などでも協力していきましょう、とエールを送って頂きました。



◆音楽ボランティアサークル Freedom music が、「二水会」のイベントに参加しました (12/8)

11月15日から学友会活動の制限が一部緩和され、明星大学北門下の二水会（高齢者の茶話会）にてパフォーマンスを行うことができました。



## 通常の活動について

### どんな活動をしていますか

- ＊春休みと夏休みに2週間、へき地の小中幼稚園での実習を体験。
- ＊旅費は自費。
- ＊事前にどこにいきたいか等部員に聞いて、学年バランスよく配置。

### 活動の時に大事にしていること

- ＊後輩やみんなが現地ではか得られない経験をできるようにサポートすること。
- ＊合宿だけでなく、クリスマスカードや絵本を送るなど一年を通して学校と繋がる。

### 毎年同じ学校に行くのでしょうか

- ＊訪問先の学校の体制もあるため、毎年同じではない。常に新しい学校との交流を図っている。
- ＊毎年行かせていただいている学校は1~2校。数年空いて再訪問する学校もある。

### へき地教育の利点とは

- ＊人間関係が密になっているメリットを活用し、独自の教育を受けることができる。地域との連携を行っているため、地域に密着した教育内容を受けることができる。

### へき地の学校を訪問する意義

#### 【学生にとって】

- ＊部員は大規模校出身者が多いので、自然に囲まれた独特の教育に触れる貴重な体験ができる。
- ＊へき地は地域と学校の交流が、都市部と比べ、とても密着している。実際に訪問して子どもたちの声を聞いて、その地域の独自の教育を学べる。
- ＊教員志望の学生たちが新たな経験をして、将来に生かすことができる。

#### 【へき地の子どもたちにとって】

- ＊へき地だと人間関係が限定されているので、授業で議論することが難しい。そこに、先生ではない、年齢の近い大学生が行くことで、人間関係が広がる。
- ＊子どもは自分たちの町からあまり出ないので、他の地域から来た人と触れ合うことで、外の地域にも興味に向くようになる。

## 今年度の活動を振り返って

### コロナ禍での活動は Zoom 活用

- ＊Zoom で2週間に1回は部員が顔を合わせて話すことで、意思疎通を図った。
- ＊へき地の学校と Zoom を用いて活動できた。今年は Zoom がなかったらこのような体験はできていなかった。

### Zoom でのへき地の子どもたちの様子

- ＊低学年は興味を持って手を振ってくれたり、近づいてきたりしてくれた。高学年の児童は上手に ICT を活用していて、1人ひとりに丁寧に教えることができていた。
- ＊へき地ではみんながパソコンを打てたり、印刷ができたり、個人のスキルが高い。低学年は ICT に慣れ親しみ、高学年で活用する、少人数ならではの ICT 教育だと感じた。



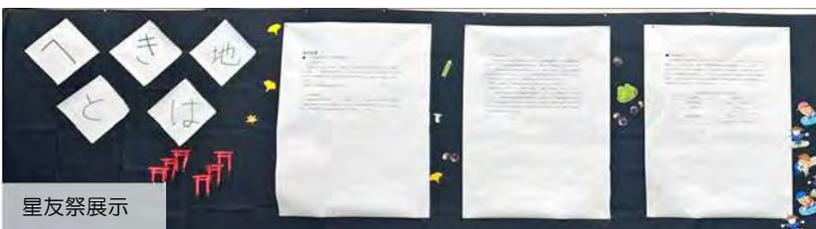
### 星友祭展示発表の工夫

- ＊現地で活動できなかったため、展示構成を活動内容・学校・地域の順に紹介して統一感を出し、各班がお互いの作品を見てアドバイスし合った。
- ＊紹介内容は、いつもとは全く違うアプローチ  
Zoom で授業を参観させていただいた班  
Zoom で子どもたちとレクリエーションで交流した班  
メールでやりとりをして、研究発表した班  
授業を参観後、学校の先生と対談した班 など

### 今後に向けて一言お願いします

【新部長・藤田悠冨さん】今年は、コロナ禍があって例年通りにはできず、活動が制限されました。今の3年生は不完全燃焼だったと思いますが、先輩からアドバイス・経験を取り入れてこれから新しいものを作っていきたいです。また、へき地教育研究部としてへき地性を知り、複式学級、わたり・ずらしの形式等へき地教育についてしっかりと学んでいけたらと思っています。

(用語については、<https://meisei-hekiken.jimdofree.com/> 明星大学へき地教育研究部 HP にて解説しています。)



星友祭展示

まだ対面での活動は難しいですが、新しいスタイルを取り入れて前向きに活動されています。お話ありがとうございました。

なお、このインタビューは、地域交流&ボランティアセンター所属の勤労奨学生が担当しました。

明星大学には、学生に有効な経済支援を行うために、本学の理念である「体験教育」や「実践躬行」を具現化した、学内の実務体験を伴う返還義務のない給付型の制度として「勤労奨学金」があります。奨学生には大学内でのインターンシップを通じて、社会人としての意識や実務経験を学んでもらうことを目的としています。

今回は、学生サポートチーム（学生サポートセンター・地域交流センター・ボランティアセンター）所属の勤労奨学生の活動を紹介します。

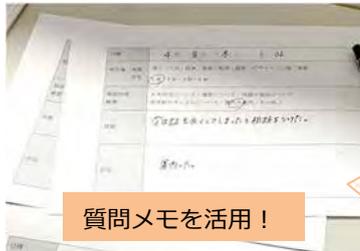
◆『学生フォロープレイス』で、新入生の大学生活をフォロー！

2020年からの新型コロナウイルスの影響により、思いもよらぬ大学生活を送っている学生たちに、私たちに何かできることはないかと勤労生で話し合い、この『学生フォロープレイス』が立ち上がりました。

活動内容としては、4月から5月までの月曜日から金曜日までの2、3限目、そしてお昼休みに、大学会館1階で「なんでもお悩み相談」を受け付けることが私たちの仕事でした。新入生や2年生は、私たち3年生が送ってきた大学生活を送ることができていません。そのためか、たくさんの学生たちが、大学での不安なことや、分からないことを『学生フォロープレイス』に相談してくれました。

今回のことで私は、人は誰か頼る人が一人でもいると安心することを皆さんに伝えたいです。たくさんの不安の中、この明星大学に入学してくれた学生たちが毎日笑顔で過ごせるように、これからも『学生フォロープレイス』は学生たちを笑顔にできる活動をしていきます。

（勤労奨学生：品川七海）



よくある質問や回答を共有し、対応者が変わっても同じようにフォローができるよう工夫しました。たくさんの学生とコミュニケーションがとれ、学生の悩みや困りごとを話せる場をつくることはとても大事だと感じました。

◆『高大連携』：明星高校で高校生に向けたボランティア講座を実施（7/15）

今回、私たちがお話しするうえで一番大切にしたいことは、「高校生にボランティアへの興味・関心を持ってもらいたい！自分の意志で参加してもらいたい！」ということです。ボランティアは自分の意志で行くということがとても大切だと考えています。私たちの話を聞いた高校生たちが自分の意志で、少しでもボランティアをやってみようと一歩を踏み出すきっかけにしたいと思い、構成を練りました。私たちは、この構成を考える段階で一番頭を抱えました。

当日は多くの生徒を目の前に緊張しました。それぞれが伝えたいボランティアの基礎・基本や、体験談などを話しました。また最後にグループワークを行い、自分たちで「ボランティアに行く上で大切なこと」を話し合い、最後の発表では新鮮な意見をたくさんもらいました。私たちも勉強になる意見がたくさんありました。

講座を終えて、大きな達成感を得ました。このような経験ができて本当に良かったと思います。少しでも高校生の後押しができたなら嬉しいです。

（勤労奨学生：淵脇杏実）

本日はみなさんに、ボランティアについてお話していきたいと思います



「自分の好きなことでもボランティアになるんだ！」「自ら行動することが大事とわかった」「ボランティア活動は、自分たちも楽しくなれると知った」など、たくさんの感想が上がりました。



# 『勤労奨学生になって』

2021年10月末でインターンシップを修了した二人の勤労奨学生の実務体験レポートを掲載します。3年間お疲れさまでした。



## 心理学部 4年 新井美穂子（地域交流センター）

勤労生として初めての大きい仕事が「星友祭」でした。大学近隣の市の特徴を調べ展示発表するのですが、地元に住んでいながらもお祭りに参加したことがなかったり、特産品を知らなかったりということが多くありました。現地に赴いて調べることで、その市の魅力を感じることができ、地元・地域外出身の大学生にも知ってもらえるように、展示を作成しました。星友祭当日は、多くの方にご来場いただけて、展示を見て「こんなのあったんだ」と関心を寄せていただいたのが、とても嬉しかったです。市からお借りした着ぐるみのパフォーマンスで、お客さんが笑顔になって手を振ってくれたこともいい思い出です。

広報紙へ掲載の記事を書くために、地域活動をしているサークルにインタビューをするという業務もありました。最初はサークル活動をうまく聞き出すことができず、悪戦苦闘しましたが、回数を重ねるごとに、どう尋ねたら相手が答えやすいかを考えながら質問することができたと思います。また、インタビュー内容から読者に伝えたい部分をピックアップするという作業も、慣れないうちは迷ってしまい大変でした。インタビューや記事の要約は、とても貴重な経験でした。

勤労生として働くなかで、先輩や職員の方々にたくさん助けていただきました。業務内外でもいつも気にかけて声をかけて下さって、いつの間にか地域交流センターに来るととてもホッとしている自分がいます。

3年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました！

星友祭出展で、連携市のマスコット着ぐるみと



サークル代表ヘインタビュウの様子



新井さん、3年間ありがとう。星友祭では、自ら地域のお祭りに参加したり、地元グルメを調べてくれたり、楽しんで関わってくれたのが印象的でした。3年前は甘えん坊のイメージだった新井さんが今では頼れる先輩勤労生へ立派に成長して卒業です！卒業してからも是非遊びに来て下さいね。（地域交流センターより）

## ボランティアセンターのリーフレットを作成



## 教育学部 4年 深野 恵利（ボランティアセンター）

私は3年前、ボランティアセンターに配属されました。私は教育学部であることから、子どもに関するボランティアを多く経験しましたが、それ以外のボランティアにもたくさん挑戦できたのは、ボランティアセンターの業務に携わるなかで、様々なボランティア活動を知ったからです。自身でボランティアを経験することで、ボランティアに対する思いや考えが形成されていきました。

1年目は業務を覚える過程で、明星大学には多様な役割をもった部署があることを知り、学生とは異なる社会人としてのあり方を知る契機となりました。

2年目はコロナ禍のため対面での業務が制限され、ボランティア活動も制限を受けました。ボランティアの4原則のひとつ、これまでにない創造性が求められる年であったと強く感じました。

3年目の今年になって、対面での業務が再開しました。その中でも、明星高校の生徒に向けてのボランティア講座を担当させていただいたことは、私にとって大変貴重な体験でした。自分の思いを分かりやすく伝えること、相手の求めていることを考えつつ内容を工夫することの難しさを、改めて実感出来ました。また、パソコンを使った業務も任せられ、できるようになったことが増えました。自分のこれまでのボランティア活動を振り返ることができ、将来に繋がるスキルが身についたとも感じる事ができた、有意義な年となりました。

勤労生の業務を通じて、新たなことに挑戦する力、臨機応変に課題解決を図る力が身についたように思います。様々な業務で学んだことは、将来に必ず生かします！お世話になりました。ありがとうございました。

## 明星高校でのボランティア講座



### 深野さん

3年間ありがとう。明星高校でのボランティア講座は、色々なボランティア活動を経験した深野さんだからこそできるお話でした。これからもみんなに、笑顔と元気を届けて、自分の夢を叶えてください。応援しています。

（ボランティアセンターより）

【概要】第56回『星友祭』ハイブリッド開催

2021年10月30日(土)31日(日) オンライン、11月1日(月) 対面 (※本学在籍者のみ)

星友祭実行委員会委員長目崎さんと、オンライン担当町田さんのお二人に、  
第56回「星友祭」の舞台裏を聞きました！

星友祭実行委員会は、多くの人と出会える場所

目崎さんと町田さんは、1年生のときからの星友祭実行委員会メンバー。新入生向けの学友会ガイダンスに、町田さんが目崎さんを誘ってからの長い付き合いとのこと。

星友祭実行委員会は、お二人のように、1年生から参加する学生のほか、2年生から入る人、1年間だけで辞める人など様々ですが、常に100名を超える大所帯。実行委員会の中の組織も多岐に渡り、企画部、装飾部、宣伝部などの部署見学を経て、希望する部署へ参入します。「学部学科関係なく、いろいろな人と知り合いになれるし、いろいろな価値観の人と触れ合い、自分と合う人が絶対いる。仕事だけじゃない」と目崎さんは語ります。



今年のテーマは「一番星」

一番星とは「宵の明星(金星)」のことで「明星」と「星」の意味が含まれています。他にも一番星は最初に輝き出す星です。

星友祭をコロナ禍に光る最初の希望の光にしようという決意を込めています。

1年生企画ゆうたん巨大貼絵(10/31)



対面への意気込み動画を配信(10/31)



「初等教育研究会 どんこの会」出展の様子(11/1)



左：町田さん

右：目崎さん



パーカーには、星友祭のマークが！



今年の星友祭は対面開催で！

目崎さんは、4月に委員長になったときから、後輩たちに対面での星友祭のノウハウを残すため、絶対対面開催で押し進めていこうと考えていたそうです。しかし、コロナウィルスの感染者が減らず、途中からオンラインとのハイブリッド開催に舵を切ることになった。8月の感染拡大で対面ができるのか、と危ぶまれたときには、企画していた規模を縮小するなどして粘り続け、星友祭を管轄する学生サポートセンターとのミーティングは週2、3回にもなったといいます。感染者が落ち着き、なんとか対面開催ができました。

一方、ハイブリッド開催が決まって目崎さんが真っ先に頼ったのが町田さん。実行委員の中から、「オンラインできる人」と挙手制で募りましたが、町田さんには、「やるでしょ、手を挙げてなくてもやるよね、そこは既定路線だよ(笑)」と、目崎さんが直接お願いしてリーダーに。一番話せる相手だし、昨年度のオンライン開催時に、芸能関係の担当だったという安心感がありました。急にオンライン担当を指名されてどうでしたか、との問いに町田さんからは、「周りのメンバーが優秀だったので、自分は何もしてませんよ」と笑顔で答えが返ってきました。

準備の終盤、対面でのステージ発表のタイムスケジュール作成が進んでいなかったため、そこにも急遽入ったという町田さん。急ピッチで頑張る間、オンラインはメンバーに任せていたそう。目崎さん、オンラインメンバーと、町田さんの信頼関係を感じます。

当日10/30,31(オンライン) オンラインでもリアル感を大事に

オンラインは、基本生配信不可だったので、いかにリアルタイムに近い状況をつくりだせるかということに苦労したそう。全一年生(実行委員)企画である「ゆうたん(星友祭キャラクター)」の巨大貼り絵作成では、当日の作業の様子を一旦動画で撮って、すぐに内容をチェック編集し、ほぼ生配信に近い配信をするといった忙しい舞台裏だったそうです。

オンラインから対面へ流れるような配信にしたかったため、配信の最後(10/31)には、サークル代表による対面への意気込み動画を配信。また、来場者は学内者のみなので、地域や学外の人にこんなことをやっていると思わせたいと思いながら、配信したとのことでした。

当日11/1(対面) 頑張ったのは感染対策

対面当日の参加希望は予想以上の350名超。参加した人からは、「サークルの人と話したり、何か一緒にやったりする機会自体がなかったことでとても楽しかった」と言われたり、サークルからも、「やれてよかった、ありがとう」と感想を頂いたのがうれしかったとのこと。当日はところどころに3年生を配置して対応力を強化し、不測の事態にも備えました。



対面当日（11/1）は体育館前で受付。  
事前申し込み・記名式で感染対策をしました。

感染対策には一番気を使ったと目崎さん。「アルコール消毒、手袋、フェイスシールドを全参加団体に配って、何か作る時には必ず手袋を着用させてほしいとお願いしました。何事もなく無事終了できて、（対策が）間違ってたのかなどと安心しました」と、ほっとした表情をされていました。

反省点としては、「後から、もっとこうできたな、というのはある。10月前くらいからはもう首の皮一枚で繋がったみたいなの、詰めが甘いところもあった」と苦笑いしながら振り返ってくれました。

### 後輩の皆さんへ伝えたいこと

目崎さん：「3年間で自分の性格を作ってくれたのは、星友祭。だから、引き継ぎたいことは、仕事もそうだけど、友人関係を大切にすること。あとは、何事もあきらめずにやってほしい。対面が楽しいというのはみんなわかっていると思うので、困難なことがあっても、あきらめないでなんとかアイデアを絞り出して、やってほしいです」

町田さん：「何事も楽しんでやってほしい。逆境を楽しむのも力になると思う。楽しいという気持ちが原動力となる。なお、3年目の人は、『地獄の3年目』を楽しんでほしい（笑）」



地域交流センターはオンライン実施日に動画で参加しました。現在は当センターFacebookにてご視聴いただけます。ぜひご覧ください。

地域交流センター&  
ボランティアセンター  
Facebook



ありがとうございました。息の合ったおふたりの並走、そして星友祭実行委員会の皆さんとの信頼関係があつての、ハイブリッド開催だったことが伝わってくるインタビューでした。

星友祭実行委員会の皆さん、大変お疲れさまでした。

（インタビュー時はマスクを着用、感染防止対策をしています。）

星友祭実行委員会の皆さんへ

今年もコロナ禍の中、様々な障壁を乗り越えて、2年ぶりの対面開催ができたこと、とてもうれしく思います。

「新しい形」での星友祭を開催できた経験は、将来、皆さんが社会人になったとき、きっと何かの役に立つと思います。本当にお疲れさまでした！

（学生サポートセンターより）

## 5 お知らせ

### ◆八王子学園都市大学「いちょう塾」へ講座を提供（令和4年度前期）

明星大学より提供する前期講座を紹介します。興味をお持ちの方は「いちょう塾」までお問い合わせください。18歳以上の方なら誰でも学ぶことができます（学校教育法に定める大学ではありません）。

担当講師	講座名	副題	回数
金澤 修	ラテン語を始めてみよう I	楽しく学ぶラテン語初歩の初歩	7
金子祥之	『平家物語』の世界を読む 第3期	盛者必衰の向こう側へ	7



発行：明星大学事務局 地域交流センター  
住所：191-8506  
東京都日野市程久保 2-1-1

電話：042-591-5111（内 7160）  
042-591-9445（直通）  
FAX：042-591-6261  
Email：gad-tkc@ml.meisei-u.ac.jp